

(様式2)

平成 30 年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1590100697		
法人名	社会福祉法人 からし種の会		
事業所名	グループホーム マナの家		
所在地	新潟市西区西有明町2番5号		
自己評価作成日	平成31年2月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/15/">http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/15/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成31年3月9日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・一人ひとりの持てる力を引き出すための支援を行っています。裁縫や食事作り、掃除等一緒に利用者に話を伺いながら、職員は支援方法を話し合い準備をし取り組んでいます。近隣のお店へ日頃の買い物以外にも、出来るかぎり希望に添えるよう買い物やドライブ等の外出も行っています。自主事業、たまり場事業も含め、様々なサービスを利用できる環境でその人らしく最後まで生活できるよう看取りにも力を入れ支援しています。

・開設してから地域との交流は広がり、ボランティア活動とともに良い形で継続されており、グループホームでは地域の夏祭りや福祉バザー、クリスマス会に参加した際には声をかけていただき、顔なじみの関係になっています。去年のクリスマス会には地域から50名以上の参加がありました。地域交流スペースを活用し開催される「たまり場」「みんなの食堂」、笹団子作りや干し柿作りは地域の皆様やボランティアの皆様、子供達と利用者様が一緒となり楽しめる機会となっています。

・地域の医療機関と連携を密にし健康管理に力を入れ安心して生活できるよう支援しています。毎日の申し送りやケース検討を行い利用者様の状態把握に努め、適切なケアが出来るようご家族、主治医とも連絡をとりながら支援をしております。

・2018年4月1日から2ユニットになり、ユニット間の交流も大切に行っております。利用者様や職員も行事やボランティアの催しの際には一緒に参加し、顔を合わせることでホーム内での顔なじみの関係を築いております。

・職員の質の向上(資格取得)を積極的に支援しており、経験年数に応じ各種研修に参加できるよう勤務調整や受講料補助を行っています。法人研修は職員合同で行い、職員間の交流も行っております。今年度も介護福祉士、社会福祉士国家試験合格にむけて法人内で模擬試験を実施。4名が受験され資格取得見込であります。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は新潟市郊外の住宅街に所在し、平成30年4月に2ユニットに増設している。建物の造りは一般住宅と変わらない外観で周囲に溶け込んでおり、玄関前の果樹や花、裏庭の花壇や畑等を眺めながら、利用者は四季を感じて過ごす事が出来ている。

職員は、一人ひとりのその人らしい暮らしが継続できるように個別性を大切にし、寄り添ったケアの実践を行っている。入居後もミシン掛けや刺し子、生け花等を継続して行えるように支援し、また、作ったものを他者に見てもらったり、使ってもらうことで「楽しみ」や「生きがい」につながるよう取り組んでいる。

事業所を運営する法人全体が、子どもから高齢者の全ての人が幸せに暮らす事を願い、一人の課題を皆で考えていく姿勢で、誰もが集える交流の場「たまり場」や食事が出る場「みんなの食堂」を開設して、地域住民がつながり助け合うことのできる地域づくりの一役を担って事業運営に努めている。このことにより、利用者も地域住民と交流する機会が多く、一緒に笹団子やちまき、梅干し、干し柿づくりを行うなど楽しい時間を過ごすしながら、地域の中で豊かに暮らし続けることができています。

また、ひとりの命に寄り添い「その人らしく最期まで」事業所で暮らすことも支援しており、職員が統一した意識のもとで看取りの実績も積み重ねている。

管理者と職員は、利用者が自分らしく暮らしていく事を支援する為に、日頃から話し合ったりアイデアを出し合う機会をもち、また、研修への参加や資格取得を目指して自己研鑽に取り組み、より質の高いサービスが提供できるように取り組んでいる。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「住み慣れた地域でその人らしく最後まで」の理念をいつでも確認できるよう玄関やリビングに掲示し、職員会議等での話し合いの中で確認しケアに活かすようにしている。新人研修や年度ごとの目標でも理念共有している。	設立時に基督教の教えを基に職員で作らあげた理念を拠り所に日々ケアの実践を行っている。理念は、毎週1回開催する夕礼拝の中でも振り返るほか、職員会議や日々のケアの中で気になることがあれば、理念に沿っているかどうかを話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の高齢化に伴い、ごみ集積カゴを年間を通じて用意するなど地域の一員としての役割を果たしている。また、地域行事や防災訓練に参加しホームでの行事や「たまり場」、「みんなの食堂」を通して、地域との交流を常に行っている。	自治会と一緒に秋のバザーや夏祭り、防災訓練への参加を通じて地域住民と一緒に住民も利用者も安心して暮らし続けられる地域づくりの役割を担っている。日頃から、地域の人が事業所の畑に野菜や花などを植えたり、手入れをしたりと、当たり前のよう交流が広がって来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護研修・実習生の受け入れを随時行い、ホームでの支援の様子をみていただいている。施設見学や元気力アップサポーターの受け入れも随時行っている。なお、ご利用者がたまり場やみんなの食堂に参加して地域の人と一緒に食事づくりや配膳を行うことにより、認知症の理解の場を持っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1回開催しており、地域包括支援センター職員、自治会長、ボランティア、ご家族、ご利用者に参加していただき、ホームのサービスについての報告と検討事項について話し合い、意見や助言を頂き、サービス向上につなげている。	運営推進会議では、利用者の状況や事業所の運営状況、行事内容等の報告、外部評価の結果等についても報告し、改善内容等について検討している。利用者のより豊かな暮らしを提供するための検討はもちろん、地域で暮らす高齢者等の課題も話し合い、事業所で支援できることを提案し、実践につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から連絡を密には取っていないものの、運営やサービスに不明な点があれば随時確認の問い合わせをし、意見や助言を頂いている。	地域包括支援センター職員が運営推進会議の委員であることから、日常的に利用者に関する相談は何時でも行う事ができている。地域ケア会議や講演会、研修会等への案内通知もあり、できるだけ参加をし、地域課題等の把握に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新任研修時にホームでの取り組みを理解していただくとともに、委員会活動や研修を通して確認、検討し取り組んでいる。玄関の施錠は夜間のみおこなっている。	3ヶ月ごとに委員会を開催し、身体拘束防止について検討している。マニュアルの見直し・整備を始め、具体的な行為についても職員が理解できているかを確認しており、さらに、年2回定期的にDVD等を活用した全体研修を実施して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新任研修時に説明を行い、理解していただくともに外部研修に参加し、法人内での研修を開催。職員会議で不適切なケアがないか確認し防止に努めている。	外部研修への参加や、事業所内研修を定期的実施して、全職員がどのような行為が虐待にあたるかを理解している。日々のケアの中で不適切な声掛けがあった時には注意し合い、また、職員のメンタルヘルスにも配慮し、必要時には職員の負担軽減のために対応する職員を変えてケアにあたる等、虐待防止に取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在入居中の方は制度の利用はなく必要性はないが、入居相談等の問い合わせの際に制度の必要な方が増えているため、今年度研修に参加し成年後見制度について学び、職員会議等で研修報告の機会を設け、周知につなげていく予定である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は不明な点を確認しながら説明をし、理解・納得したうえで署名、捺印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者には日々の会話から意向を聞き、ご家族には面会や電話の際に報告・意向の確認を行っている。他に、面会票や苦情受付用紙、暮らし日記等に記入欄を設け投書可能にし、頂いたご意見は職員間で共有し改善に努めている。	利用者には普段の暮らしの中で、要望や暮らし方への希望を聞いている。家族には面会時や介護計画の作成時、行事参加時に丁寧に聞いている。また、家族に送付するおたより「暮らし日記」には写真とともに意見を聞くスペースを設けて、返信を寄せてもらうように工夫している。2ユニットになったことで駐車場に関する要望が寄せられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りや職員会議時に意見や提案を聞き可能な限り反映に努めている。会議以外でも普段の会話から職員の意見や思いを聞く機会を設けている。	前回の外部評価結果から、より職員の意見を聞く機会として管理者による個別面談を実施している。また、職員会議においては積極的に意見交換が行われており、普段からも職員同士が意見を出し合える環境づくりに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	リーダー会議の際に職員の状況を代表者に伝え、情報を共有している。代表者は労働環境への意見・要望を聞き整備を行う。ユニットが増えたことで夜勤2人体制となり職員の負担の軽減、職員間の協力体制強化につながっている。ホームでの行事や日頃の様子を機関紙にのせ、地域や家族、外部の方へお知らせしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望する研修内容や職員の経験年数や意欲に応じた研修計画に沿って、全職員が研修を受けられるよう実践している。法人研修も計画し、参加できなかった場合も職員会議で情報を伝達し職員全体のレベルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者間の交流は少ないが、他事業所からの施設見学を受け入れ、ホームの取り組みを見ていただき、ご意見や情報を頂く機会を設け、サービスの向上につなげている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にご本人と面会し、困りごとや不安をお聞きし、介護計画書作成やケアに活かしている。知り得た情報を職員間で共有し、ご本人の不安や要望をいつでも聞ける様、日々会話をしながら関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にご家族と面会しご家族からご本人の様子を伺い、入居に伴い困っている事や不安、要望をお聞きし、意向に沿った介護計画を作成、説明を行っている。面会や電話等でご本人の様子を伝える等こまめに連絡を取るよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前にホームの見学を勧め、実際のホームの様子を見てもらい、必要とされているサービスをお聞きし、提供できるサービスの説明を行っている。必要時担当のケアマネジャーにも連絡をとり、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が出来ることは任せ、出来ない部分を職員が補い、力を発揮できる機会を設けている。作業しながらにお話を聞かせていただき、関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へは各行事の開催について機関誌や暮らし日記の発行で案内を行いお誘いし、ホームでの様子もお伝えしている。受診の付き添いや物品の購入等協力をお願いしご家族との関わりが継続するよう努めている。	離れて暮らす家族の心情にも寄り添いながら、家族でなければできないことを、面会時や病院への付き添い時に伝えたり、介護計画を一緒に考えて共に支援していることを共有している。利用者の個別の外出や買い物への対応、行事等への参加を得て一緒に過ごす時間が持てるように支援している。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の馴染みの方のお宅に訪問したり、行きつけの美容院に通ったりと外出の機会を設け、関係が続くよう支援に努めている。また日々の会話から要望をお聞きし外出できるように調整し、実施している。	暮らしの中で把握できた馴染みの場所への外出や、入居前から行きつけにしていた老舗の菓子や惣菜の買い物、親しんでいた趣味活動等を継続して行えるように支援している。また、地域住民との交流の場である「たまり場」へも参加し、馴染みの関係を築いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係性を日頃の様子から気づき、職員間で関係を把握している。食事や活動時には席を配慮したり、一緒に会話できるような話題を提供している。トラブルが発生した場合には、職員が入り双方の意見を聞きながら関係の修復に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用について、ご本人の状態をご家族と一緒に把握し必要な支援について話し合いを行い、退去先等の相談支援に努めている。また入院で利用終了された方へはお見舞いなどで伺い、できる限り支援できるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族へ生活の様子をお伝えしながら相談し、ご本人からは話を伺いながらケース記録や職員間での申し送り時に情報を伝え、検討し支援できるよう努めている。また表情や行動から気持ちを推測し汲み取るように努めている。	利用者の思いや希望は、普段の暮らしの中での何気ないつぶやき、リラックスして過ごしている時の対話、居室でゆっくり思いを聞く機会を持つなどして把握するように努めている。また、利用者同士の関係性や、レクリエーションでの様子等、言葉に発せなくとも外から気づくようにしている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談で知り得た情報以外にも、ご家族や関係事業所に今までの生活について伺うことで把握し、職員に情報を報告している。	入居時には自宅への事前訪問を実施して、利用者・家族からの聞き取りや、住まいの環境、慣れ親しんだ生活習慣を把握できるように努めている。また、介護サービスを利用していたり、入院先からの入居に際しては、居室のケアマネージャーや相談員から情報を得ている。アセスメントは「KOMIレーダーチャート」を活用し、詳細に状況の把握に努めている。	今後は入居後に把握できた利用者の新たな情報を記録に落とし、職員間で共有するシステム作りに期待したい。それにより得られた情報を積み重ね、利用者への理解を深めて、さらに豊かな暮らしが送れるように努めてほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	どのように過ごしているかケース記録等に記載し、職員は状態を把握し、必要な支援を職員会議や申し送り時に検討。支援方法を確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人ひとりに担当職員を配置し、モニタリングやケース記録から課題を導き、職員会議で意見を収集しサービス担当者会議に繋げている。ご本人、ご家族に意向を伺いながら介護計画を作成している。	利用者が事業所内だけではなく、地域の中でより本人らしく、豊かに暮らしていくために、利用者・家族の思いや意向を把握し、その目標達成のために関係者が意見を出し合い介護計画を作成している。介護計画は、定期的にモニタリング、アセスメント、見直しを行いながら利用者の状況に即した計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録の内容を各勤務の職員は閲覧しながら情報を把握し、職員会議等の話し合いの場で現状を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自主事業、たまり場事業、みんなの食堂とグループホーム以外のサービスを提供できる体制が整い、施設内での生活の幅は広がった。細かなニーズに対しては検討し対応できる限りの支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今ある地域資源の情報を把握に努めている。自治会と福祉施設との共同の福祉バザーを展開し定着しており地域のボランティア、傾聴、メイクボランティアの力を借り、ホームと外部の関わりを増やし楽しんで頂けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続受診をお願いしているが、ご本人の心身の状況やご家族の状況に応じ相談し、主治医の変更も支援している。手紙でご本人の様子をお伝えしたり、必要時職員は受診に付添いご家族とともに適切な医療が受けられるよう支援している。	入居時に利用者・家族の希望により「かかりつけ医」の継続・変更を決めている。受診の付き添いは家族が行っているが、事業所での様子や状態については家族を通じて、また、必要に応じて文書や電話での連絡、職員が付き添うことにより正確に伝わるように努めている。協力医とは往診体制もあり、いつでも連絡・相談ができる関係性が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師が健康チェックを行っているが、日ごろは介護職がバイタルチェックや心身の状態把握に努めており、変化や気づきを看護師に報告、相談し異常の早期発見につながっている。なお、必要時ケースにより往診の医師の確保できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、速やかに介護サマリーにより情報提供を行い、スムーズに医療が受けられるよう支援している。また、退院にあたっては家族や病院関係者と今後のケアについての話し合いを持ち、安心してホームでの生活に戻れるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重要事項説明書にて説明し同意を得ているが、重度化が予測された場合、また重度化した場合にはホームのできることを再度説明しご本人、ご家族からお話を伺い意向を確認し、意向に沿った支援に心がけている。必要時主治医も話し合いに参加して頂くなどの連携を行っている。	入居時に「重度化及び看取りに関する指針」として事業所の方針を文書及び口頭で説明している。利用者の状態変化に早くから気づくことに努め、重度化が予想される場合には、利用者・家族、かかりつけ医と終末期のあり方や対応について話し合っている。看取りを事業所で行う場合は、関係者や家族で段階的に話し合い、最期までその人らしい暮らしが送れるように支援している。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新任採用時に急変時の対応について看護師から説明を受けている。また消防署主催の救急講習会にも参加し講習終了している。なお、緊急時のフローチャートを見やすいところに掲示するとともに電話機のところに救急車への連絡方法を掲示しスムーズに対応できるようにしている。	消防署主催の救急救命講習会への参加、AEDの取り扱い研修や、近隣病院の出前講座を活用した「褥瘡予防」「食事に関する事故防止」等の研修、事業所配置の看護師による応急手当等の実践研修を定期的実施している。また、マニュアルの整備や連絡体制の周知、通報訓練を実施し、緊急時に備えている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害についてのマニュアルを作成し、いつでも閲覧できる場所に置いている。避難訓練時に火災地震、夜間対応で実施している。また自治会主催の防災訓練にも参加しているが、協力体制は今後の課題になっている。	マニュアルの整備、避難場所の確認、定期的な避難訓練を実施している。また、地域の自主防災訓練にも参加し、災害発生時に事業所のできる事等を伝え、協力体制が築けるよう取り組んでいる。	今後は事象別や利用者一人ひとりの状態に応じた避難方法を検討し備えておくことが望まれる。また、防災については事業所のみならず、地域全体の課題として捉えていることから、より地域との協力体制が築かれるように努め、5月に開催予定の住民と共同の研修会の実施で関係性が深まる事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の気持ち行動を尊重した声掛け、対応を心がけている。記録時は見守れる距離で記録内容が見えないよう配慮している。	利用者一人ひとりの思いを受け止めて、利用者間の交流の「距離感」に配慮している。管理者は職員に対し、不適切な言葉とならないよう適宜注意を促している。また、男性職員が女性利用者に対する身体の直接介護には制限の配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中から希望や要望を汲み取り、ご本人の意志で物事を進められるように声掛けや対応をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のできることを職員は見極めながら、家事や炊事を一緒に行っている。また、できる限り希望に合わせ柔軟に対応するよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身支度や整容などできる限りご本人にお任せしているが、できない場合には職員が代わりにご本人に合った支度に整えて過ごして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は当日に決まるため、食べたいものがあれば希望に沿って調理を行うことができる。ご本人の能力に応じ下ごしらえや盛り付けなど調理の工程に参加して頂いている。	献立は食材のパンフレットや新聞広告からヒントを得て、その日食べたい物を利用者の希望も反映させながら、当番職員が決めている。行事食や外出時の食事でも利用者の楽しみになっている。また、手作りおやつや普段の食事作りの中で米とぎや味見等の役割を担うことが利用者の生きがいにつながると捉えて、楽しみながら参加できるように支援している。食事中は、テレビを消して、利用者と職員が和やかな雰囲気の中で会話を楽しんでいた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の際に咀嚼や嚥下、摂取量を確認している。口腔内の状況も踏まえて最適な食形態にし提供している。食事量や水分量が少ない方にはお好きなものや食べやすい飲みやすいものを用意している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、洗面台での口腔ケアを勧め実施している。お一人ではできない方には介助を行い清潔を保っている。義歯や口腔内の状況をご家族に報告し、必要時は受診をお願いしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄リズムに合わせてトイレ誘導や交換を行っている。	一人ひとりの排泄状況を確認しており、時間誘導や声かけを行うこと、状態にあった排泄用品を使用することで、トイレで排泄することを支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	室内で行える運動や散歩を取り入れたり、便座に座り自然排便できるよう誘導を行っている。水分摂取や食事以外にも薬による調節を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴のタイミングはご本人に合わせている。入浴までに時間がかかる方には気分を尊重してタイミングをはかり、時間帯や日にちを変更するなど対応している。	入浴は週2回を予定しているが、利用者の状態や気分により曜日や時間帯の変更を行い、気持ち良く入浴できるように支援している。また、入浴することになかなか気持ちが向かない利用者には、足湯を試みながら入浴につながるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態に合わせて休養できるよう、ソファや居室に案内している。夜間、眠れない場合には眠れる環境づくりを支援し、飲み物や一緒に過ごしながらか安心して休めるよう照明や空調を調節している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の種類、副作用等セット時に見られるようにファイルにまとめ活用している。セット時には職員2人で行いチェックをし、薬の変更時は日誌に記載。また申し送りの際に伝達し周知している。錠剤から散剤への処方をお願いしたりと服薬の工夫も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お好きなことや興味があることは何か、お話を伺い道具を準備し支援している。甘味やお酒がお好きな方へは個別に用意している。別ユニットへ遊びに行き、交流をして気分転換を図る等の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への買い物やドライブ、散髪等は希望に沿って外出できるよう支援しているが、長時間の外出の際には職員体制を整えて実施している。	日常的には事業所周辺の散歩や、買い物、近くの公園に出かけている。また、毎年桜の花見や、利用者の希望を聞いて、道の駅、果物狩り、水族館、昔馴染みの商店街などにも出かけて外出を楽しんでいる。個別にも家族の協力を得て、買い物や美容院、ドライブに出かけるなど、外出の機会が得られるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの金銭に対する管理能力を見極め、ご家族の理解のもと、ご本人の財布を持ち買い物をさせていただいている方もいる。希望にそって買い物や外出時にご本人のお金が見えよう配慮、支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの方へ使用方法の支援やご家族からの取次ぎを支援したり、品物等が届いた際には電話でご家族とお話ができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調や照明、テレビの音量等は注意し、ご利用者に確認しながら調節している。ご近所の方やボランティアの方からお花を頂くこともあり、生けて頂き観賞している。車いすの利用もあるため動線も配慮している。	共用空間には自然の日差しが天窗や食堂の窓から差し込み、明るい空間となっている。食堂はテーブルの他にソファが設置しており、利用者がゆっくりテレビを見たり、会話をしたり、ゲームを楽しむ場所となっており、自宅の居間で過ごしているような雰囲気づくりが行われてる。季節ごとに壁面の飾りを変え、季節の花を活けるなど、利用者が四季を感じられるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席以外にもフロア内にはソファやカウンタ席を用意。エレベータ前にもイスを用意しお好きなお席で過ごしていただいている。気分に合わせて自室でお過ごしいただくことも勧めており工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と入居の際にご本人が使用していた家具や備品をお持ち頂き、空間整備に努めている。心身の状況に応じ転倒予防のマットを床に敷く等の配慮をしている。自室清掃は職員が行うが、できる部分はご本人に任せ清掃して頂いている。	自宅で使用していた家具や大切にしていた飾り物等の持ち込みや、ベッドの位置などを工夫し、できるだけ自宅での暮らしとギャップを感じさせないように居室づくりを行っている。写真や花などを飾り、一人ひとりがゆっくり居心地良く過ごせており、また、居室窓の外に洗濯物を干すなど自由な暮らしを支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力に合わせて、リモコンや照明スイッチの使用方法、場所の案内を標記し認識しやすいよう配慮している。自室内に必要な方には手すりを設置し、移動できるよう支援している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				